な金を昭和60年頃から産出している。

この菱刈金鉱といえば、発見を契機に大仕手戦で成功した是川銀蔵を思い出す。

通称是銀さんの人となりは津本陽著「最後の相場師」等につぶさに描かれているが、83歳の時に菱刈の良質な金を確信した彼は住友鉱を200円台からひたすら買い続け、千円台でほとんど売り抜けて200億円という空前の利益を得た。

儲けた金は税金と交通遺児の奨学基金設立で使い、95歳のアッパレな生涯を終えた。

4　金と銀の協奏曲

金は文字通り金属の中で最高の評価を得ているが、かつては銀の方が重宝された時代もあった。ただ産出量が全く違うため、現在（2/19田中貴金属）は金が1ｇ当り15,808円に対し、銀はわずか180円で、1%強の価値しかない。

しかし「いぶし銀の魅力」と言われるように銀には銀の良さがあり、高齢者を称して「シルバー世代」と呼ばれることがある。

これは年配者の頭髪からのイメージかと思っていたが、旧国鉄時代に敬老会で招待した高齢者の座席が銀色（シルバー）だったためとネットで語源説明されている。

大した理由でもないので、最近ではシルバーに変わり「シニア世代」の方が使われている。

金の特性は溶けても又再生が可能であるため、使い古した半導体からなるパソコンやスマホ等の廃棄物は「都市鉱山」としてリサイクルされ、貴重な資源となっている。

宝飾用の金は男にはあまり興味はないが、金メダル・金賞・金時計・金鵄勲章と言ったものは金を化体とした名誉であるため、限りなく人を引き付ける。

ダークダックスが昔歌っていた♪銀色の道♪は宮川泰が少年時代を鴻之舞金山で過ごした思いを曲に乗せて作ったという。

私は金も銀も持っていないが、レハールのワルツ♬金と銀♬でも聴きながら、金銀を空想豊かに思い浮かべたい。